



発行所 高知新聞社  
高知市本町3丁目2-15  
088-822-2111 780-8572  
© 高知新聞社 2018

関連記事

- 2面＝首相総裁選出見込み延期
- 4面＝企業の備えに重点
- 26面＝F1選手が復旧支援
- 28面＝防災の心構え高知市で講演
- 29面＝炎天下「少じても力に」

# 「警報 非日常への切り替え」

## 「わがこと意識」重要

中国、四国地方を中心に大きな傷痕を残した西日本豪雨。高知県内でも3人が犠牲になり、県内初の大雨特別警報も発表された。激しい雨が局地的に続く「線状降水帯」など大雨に関するメカニズムの解析が進む中、私たちは口頃からこんな心構えでいるべきなのか。高知市主催の「防災人づくり塾」で13日、兵庫県立大学の木村准教授(防災心理学)が災害への備えを講演した。その要旨を紹介する。(大山泰志)

警報や避難勧告など災害時はさまざまな情報が出される。各情報ごどんな意味を持つかをしっかりと理解し、行動することが大切だ。岡山県倉敷市真備町では、多くの人が犠牲になったが、ちゃんと対応して助かった人もいる。

「わがこと意識」という言葉がある。他の場所の災害を自分のこととして意識してほしい。発生頻度が低い災害は直接的経験が少なく、リスクをイメージしにくい。ことあるごとに自分の意識を喚起しないといけない。

危機管理には、①疑わしい時は行動せよ②最悪事態を想定して行動せよ③空振りには許されるが、見逃しは許されないという原則がある。実際に対応したが、災害は起きなかったというのが、危機管

### 高知市 木村准教授(兵立大)が防災講演



「弱い所を知り、対応力を上げていく。やったらやった分の力が付く」と話す木村准教授(13日夜、高知市丸ノ内1丁目の総合あんしんセンター)

理ではパーフェクトな災害の可能性が普段とは桁違いに高まっているので、心のスイッチ

水害には土砂災害、浸水害、洪水害があり、子を日常から非日常に全て当てはまる所も一切り替え、いろいろな情報を見聞きしたり判断したりして過ごす、ハザードマップをし

「警報が出てても今ま行く店、病院、勤め先、で災害が起きてない」とよく通る道、どこが危険かを手チェックしてほしい。情報は多く転がっているが、生かすも殺すもわれわれの気持ち一つだ。

避難勧告が出てても、ハザードマップで自宅が2階まで漬からず河川近傍でもないなら、(必ずしも避難所に行くのではない)自宅2階に避難することもあり得る。事前にマップを見ていないと、本番でゼロから何かを考えることは難しい。

今回の雨で特別警報が話題になった。「特別警報ができ、警報が格下げになった。特別警報が出たら気を付けよう」という人が増えてくるが、とんでもない勘違いだ。警報が出ればいろいろな判断をしないといけない。

警報は、人が死んだり、物が壊れたりする情報ではない。そうしただと思っ